

平成 27年 11 月 9 日 オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会

○**小林委員** 私からは、都立競技施設整備の進捗状況についてお伺いいたします。

当初、四点ほどお伺いしようと思っておりましたが、これだけ質疑も重なっておりますので、答弁も恐らく同じだろうというものもございますので、二点だけお伺いして、残りの二点は意見として述べさせていただきたいと思っております。

都議会公明党はかねてから、二〇二〇年の成功はパラリンピックの成功にこそあるとの視点から、史上最高のパラリンピックにすべく、関係者からのヒアリング、現場の視察などを重ね、繰り返しさまざまな提案を行ってまいりました。

先日、イギリスを訪問された遠藤利明五輪担当大臣も、記者会見で、五輪の成功の鍵はパラリンピックにあった、五十一年前に初めてパラリンピックを開催したのは東京だ、パラリンピックを前面に押し出して全体の大会づくりをしていきたいと述べられたと報道されておりました。

このたびの三競技施設の設計に当たっては、いずれも質の高い競技場の整備、良好な観覧環境、レガシー、環境配慮、コストという五つのポイントが提示されていますが、パラリンピックの成功、障害者スポーツの振興、さらに障害者理解の促進という点からも、良好な観覧環境の整備というのは特に重要な取り組みであると考えます。

現在、都では、障害のある人が利用しやすい環境を整えていくための基準であるアクセシビリティガイドラインの策定を進めているかと思いますが、都議会公明党は本年の第二回定例会において、策定する基準は、利用者の特性やニーズを踏まえた実効性のあるものとすべきであることを求めたところであります。

このたびの都立競技施設整備の進捗状況においては、設計におけるアクセシビリティガイドラインの対応にも触れられておりますが、まずは後の貴重なレガシーとなるようなガイドラインを策定し、今後の実施設計段階での具体化を着実に進めていただきたいと強く要望させていただきたいと思っております。

次に、環境への配慮という点についてお伺いします。

今回の三施設は、いずれも大規模施設であり、省エネ、再エネを考慮した設備計画に取り組んでいくとのことですが、三施設の中でも、特にアクアティクスセンターは、水泳場という施設特性から水やエネルギーの消費が大きい施設でもあり、特に環境へ配慮した取り組みが求められるところであると思っております。

そこで、アクアティクスセンターにおいて、環境への配慮という視点から取り組んでいく対応策についてお伺いいたします。

○**小野寺オリンピック・パラリンピック準備局施設整備担当部長** アクアティクスセンターは屋内プールでございますので、年間を通じて多くの水を使い、水温調整や空調などにエネルギーを必要とする特徴のある施設でございます。

このため、これらの熱源に太陽熱温水器や国内最大級規模の地中熱ヒートポンプを利用するほか、プールの休館日等には、可動床を水面まで上げて放熱を防ぐこととしております。また、プールの水は、高精度のろ過装置を使いまして循環利用するとともに、太陽

光発電やLED照明を活用するなど、再生可能エネルギーや省エネルギー設備の効率的、効果的な導入を図ってまいります。

これらの取り組みによりまして、先ほどもご説明いたしましたが、エネルギー消費量及びCO₂の排出量を、従前からの標準的な設備を使用した場合に比べまして約三割削減する設計としてございます。

○**小林委員** 同じく環境への配慮の中で、三施設とも木材利用というものが掲げられております。国においても、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における木材利用等に関するワーキングチームが立ち上がり、木材利用について幅広い検討がなされております。

奈良、法隆寺の五重の塔、金堂が、現存する世界最古の木造建築ということにも象徴されるように、日本における木材の役割は極めて重要であり、和の文化を発信していくという点においても、また、木材の醸し出す雰囲気によるアスリート、観客への好影響という点においても、戦略的に木材利用を推進していくべきであると考えます。

特に多摩産材の活用というものは、ぜひともこれは積極的に推進をしていただきたいと強く願っておるところでございます。

最後に、整備費についてお伺いをいたします。

三施設それぞれの整備費の中で、平成二十八年以降措置する経費として、工事中のセキュリティへの対応費というものが想定されています。アクアティクスセンターは三十億円、有明アリーナは十八億円、海の森水上競技場は二十億円がそれぞれ計上されていますが、工事の安全対策というものとは違い、これだけの経費を要するセキュリティ対応とはどういうものなのか、都民の皆様にはなかなかわかりづらい点もあるかと思えます。

そこで、工事中のセキュリティへの対応費において想定されている内容について、最後にお伺いいたします。

○**花井オリンピック・パラリンピック準備局施設輸送担当部長** オリンピック・パラリンピック競技大会には多くの注目が集まりますことから、工事妨害やテロなどの標的になりやすいことが想定されます。

そのため、ロンドン大会の例では、会場の整備に当たりまして、工事段階から、二十四時間体制の警備員配置やセキュリティカメラの配置、堅牢な仮囲いなど、通常の建設工事以上のセキュリティ対策を実施しております。

東京大会におきましても、過去の大会と同様に高い水準のセキュリティ対策を講じ、安全・安心な大会を実現するために、セキュリティ対策費用を施設整備費として計上いたしました。

具体的な対策は、今後、組織委員会や関係者と連携して検討してまいります。